

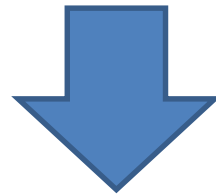
# 台風19号被害に伴う災害ボランティア活動

## あきる野市社会福祉協議会の取組み

社会福祉法人 あきる野市社会福祉協議会  
あきる野ボランティア・市民活動センター  
橋本朋久

# 災害ボランティアセンターとは？

被災地域の生活の復旧・復興に向けて  
支援を必要としている人（被災者）と  
支援をする人（ボランティア等）を  
結びつけて、効率よく支援をすすめる

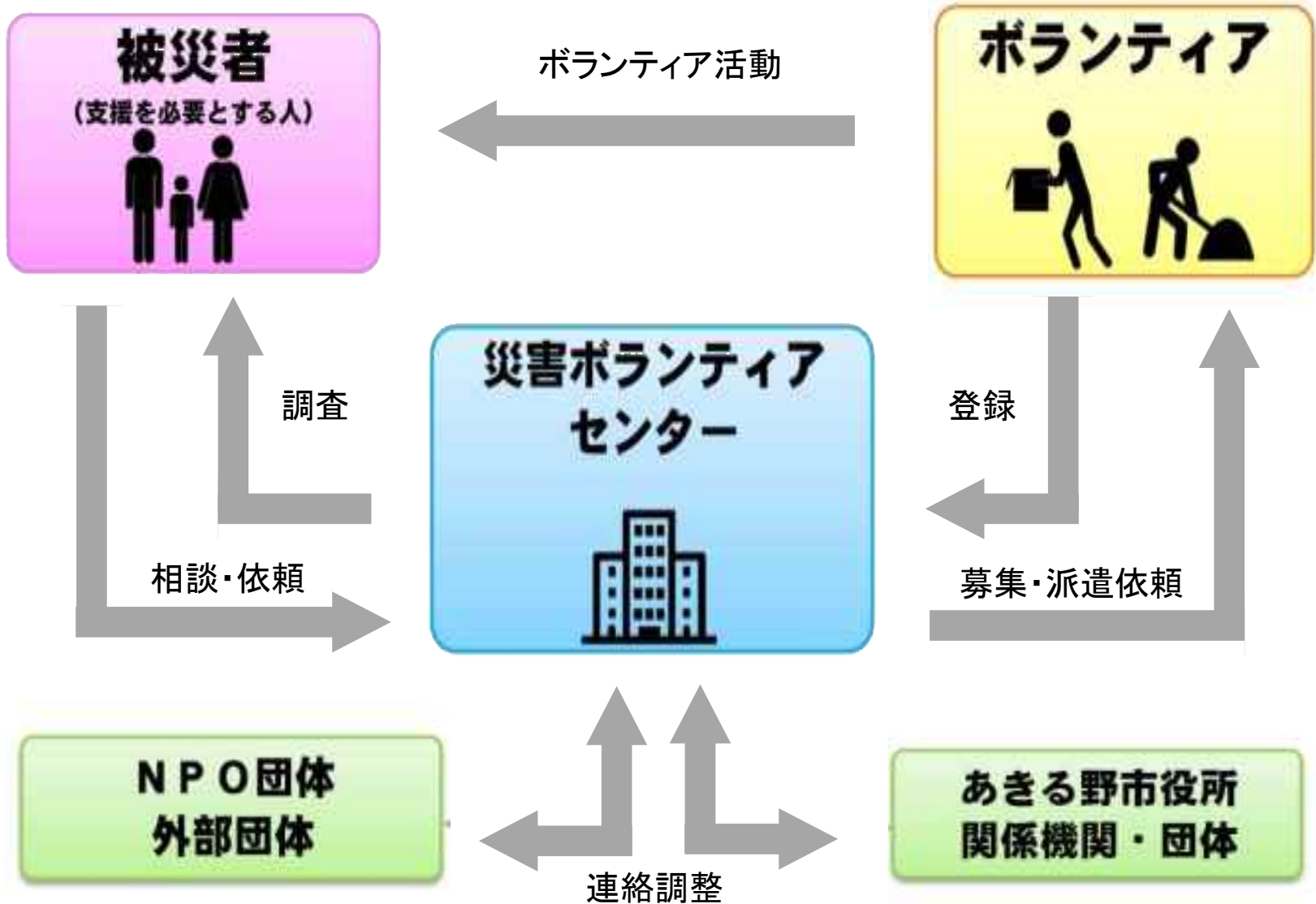


災害ボランティアセンター

# 災害ボランティアセンターの主な役割

- 1 被災者のニーズの収集・調査
- 2 ボランティア募集・受付・派遣
- 3 ボランティア活動の支援・調整
- 4 行政、関係機関、NPO団体、外部団体との連絡調整
- 5 情報収集・発信
- 6 被災者支援のプログラム作り 等

# 災害ボランティアセンターのイメージ



# あきる野市災害ボランティアセンター

震度5強以上による地震、  
大雨等による河川の決壊、  
土砂の崩落など、



市内に災害が発生し、災害ボランティアによる支援が必要である場合、あきる野市災害対策本部との協議を行い、あきる野市社会福祉協議会がセンターを設置し、運営をします。

# あきる野市災害ボランティアセンター 設置場所は？



## 秋川ふれあいセンター

あきる野市平沢175-4 595-9033(係直通)

今回の台風19号の災害では、  
あきる野市との協議の結果、  
災害ボランティアセンターは  
開設しませんでした。

通常のボランティアセンターで  
被災者の支援にあたりました。

# **台風19号被害に伴う 社会福祉協議会の取組み**



## 社会福祉協議会の対応

- 10月14日(月) 市内の被害状況確認、災対本部、避難所視察  
避難所に赤十字の支援物資、非常食パンの搬入  
災害ボランティアセンターの設置準備  
社協職員6名、東社協職員4名で対応
- 10月15日(火) 山田地区の被災地域のニーズ調査、職員2名対応  
市との協議の上、災害ボランティアセンターは  
設置しないことを決定、登録制で災害ボランティアを募集
- 10月16日(水) 中村地区の被災地域のニーズ調査、職員4名対応
- 10月17日(木) 行政、業者より災害活動備品の調達
- 10月20日(日) 災害ボランティアによる支援活動 1日目  
山田下分、中村地区に支援活動を実施  
活動件数8件、参加ボランティア25名

## 社会福祉協議会の対応

- 10月21日(月) 浸水家屋の現地調査(山田、中村地区)  
DEF災害エキスパートファーム 鈴木代表の協力、  
現地調査を実施
- 10月26日(土) 災害ボランティアによる支援活動 2日目  
山田地区山田グラウンドにサテライトを設置  
活動件数5件、参加ボランティア23名
- 10月27日(日) 災害ボランティアによる支援活動 3日目  
活動件数6件、参加ボランティア約70名
- 10月31日(木) 災害見舞金の支給 44件 合計600,000円

## 社会福祉協議会の対応

11月 2日(土) 災害ボランティア支援活動 4日目  
活動件数3件、参加ボランティア13名

令和2年

1月19日(日) 災害ボランティア支援活動 5日目  
活動件数1件、参加ボランティア15名  
災害ボランティアによる支援は終了

# ①支援物資の配付



日本赤十字社の支援物資



避難所(いきいきセンター)



緊急セット

【内容】  
携帯ラジオ、懐中電灯、風戸簾など



安眠セット

【内容】  
キヤンピングマット、枕、アイマスクなど



毛布



バスタオル



避難所(いきいきセンター)へ搬入し、  
赤十字が備蓄している支援物資や非常食  
などを避難されている方へ配布しました。

## ②被害状況視察・ニーズ調査



被災地域へニーズ聴き取り



ボランティア活動前の現地調査

### 災害に伴う、家の片付け等のお手伝いをします

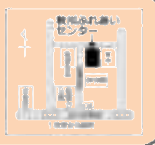
**1 ボランティアの依頼方法**  
直接または電話、ファックス等である野ボランティア・市民活動センターへお申込みください。  
お申し込みの際は、以下の内容をお知らせください。  
①依頼する内容 ②場所（住所） ③依頼者のお名前 ④依頼者の連絡先 など  
後日、担当者から連絡のうえ、詳細な依頼内容の確認を行います。

**2 受付期間**  
令和元年10月15日（火）～10月31日（木）まで

**3 受付時間**  
直接または電話：午前8時30分から午後5時15分まで  
ファックス：毎日24時間受付

**4 お 願 い**  
新着の野ボランティア・市民活動センターでは、ご要望にお応えできない場合もあります。その場合は、改めてご連絡しますのでご了承ください。

社会福祉法人あきる野市社会福祉協議会  
あきる野ボランティア・市民活動センター  
あきる野市中央1-75-4（秋川3枚あいセンター内）  
電 話：042-559-9033  
FAX：042-559-3561



ボランティアセンターのチラシ

被災地域をまわり、ニーズの聴き取りを行い、チラシを配布しました。

### ③ボランティア活動用資材・備品の確保



作業用手袋・軍手



消毒液



防護服



使用済みのタオル



スコップ、バケツ、一輪車などの作業用資材

- ・ 支援活動に必要な資機材の購入
- ・ 行政からの備品の支給
- ・ 業者から資機材の寄付（手袋、スコップ、タオル等）
- ・ 災害ボランティア支援金などの寄付の受付など  
⇒災害ボランティアが活動するために調達しました

# ④災害ボランティアの事前受付・ 登録災害ボランティアへの呼びかけ



QRコード

あきる野ボランティア・市民活動センターのホームページ

ホームページでの呼びかけを行いました

## ⑤災害ボランティアによる支援活動



ボランティアの受付

●ボランティアの受付  
参加者の氏名や特技、ボランティア保険の加入の確認を行う。  
サテライトを開設した。



オリエンテーション

●オリエンテーション  
活動前に活動内容、グループ割り、注意事項などを説明し活動につなげる。  
災害ボランティア、社協職員と一緒に活動に入る。



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

- 災害ボランティア活動  
家財運びだし・泥だし



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

- 災害ボランティア活動  
床はがし・壁はがし・  
床下の泥だし



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

- 災害ボランティア活動  
床下もぐり作業(通称:もぐら)



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

- 災害ボランティア活動  
土砂、流入ごみの運び出し



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

### ●災害ボランティア活動 横田米軍による支援協力



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

### ●災害ボランティア活動 炊き出し



## ⑤災害ボランティアによる支援活動

### 災害支援活動の活動件数及びボランティア数

	活動日	活動場所	活動件数	参加 ボランティア数
1日目	10月20日(日)	山田、中村	8件	25名
2日目	10月26日(土)	山田、中村	5件	24名
3日目	10月27日(日)	山田、下館谷	6件	72名
4日目	11月 2日(土)	山田、留原	3件	13名
5日目	令和2年 1月19日(日)	留原	1件	15名
		合計(延べ)	23件	149名

災害ボランティアとして協力いただいた方、団体

## 社協登録災害ボランティア

災害関連の講座の参加者に事前災害ボランティアとして登録を進め、平時は防災訓練や災害VC訓練時などに参加し、防災・減災の啓発を行う。

今回の災害では、社協から声掛けをして、支援活動に協力していただいた。





災害ボランティアとして協力いただいた方、団体

## あきる野青年会議所

20歳から40歳までの青年が集まり、よりよい社会づくりを目指して、様々な活動を行う団体です。

平成27年3月にあきる野青年会議所と社会福祉協議会との間に災害時相互協力協定を結びました。

今回は広く会員に呼びかけ、災害支援に協力いただきました。



## 災害ボランティアとして協力いただいた方、団体

### 復興支援隊☆チーム府中

東日本大震災発災後より、支援物資の提供や学習支援、被災地の復旧・復興へのボランティア活動をしている。

直接的な支援活動の他、炊き出し、チーム内でボランティアを調整してかけつけていただいた。



災害ボランティアとして協力いただいた方、団体

## 災害エキスパートファーム (略称: DEF)

技術系災害ボランティアの  
スキルアップを目的として、  
2019年4月に「OPEN  
JAPAN」「DRT-JAPAN」「臨  
坊」の3団体から発足。  
代表はあきる野市草花  
陽向寺住職の鈴木氏。  
現地調査から床下作業な  
ど指導していただいた。



災害ボランティアとして協力いただいた方、団体

## 東京土建西多摩支部

西多摩地区の建設労働者の組合。あきる野市、羽村市、瑞穂町、檜原村と防災協定を締結。各自治体の防災訓練に参加。

今回は事務局の呼びかけにより、建築技術者の協力をいただいた。



その他、横田米軍、西多摩臨済会の協力をいただいた。

**災害ボランティア活動を振り返って**

# 災害ボランティア活動を振り返って

## 良かった点

- ①自治会や地域の避難対応や復旧応援がとても迅速だった。
  - ・日ごろからの地域のつながりを再確認できた。
  - ・被災翌日から地域での復旧活動が進み、迅速な支援・地域力を感じた。
  - ・地域の助け合い、お互い様という気持ちをととても感じた。
  
- ②ボランティアの方と復旧活動に入れたこと。
  - ・被災者の方や関係者の調整、ボランティアと協力して災害活動が現地でできたこと。
  - ・必要な物資や技術、知識などボランティアから教わることもできた。
  - ・顔と顔を合わせることで、お互いにコミュニケーションができたこと。
  
- ③災害を通じて、新たな関わりが持てたこと。
  - ・協力いただいたボランティアや自治会、関係機関や団体との連携がとれた。
  - ・他市からの問合せやボランティア活動希望の連絡を多数いただいたこと。

# 災害ボランティア活動を振り返って

## 反省点

- ①市内の被災状況を把握することができなかった。
  - ・現地調査やニーズ調査が届かない地域があった。
  - ・被災者のニーズを拾うことができない。
  
- ②“災害ボランティアセンター”として開設できなかったこと。
  - ・広範囲でのボランティアの募集や迅速なボランティア対応ができなかった。
  - ・土日のみの活動日であったため、ボランティア希望者をつなげることができなかった。
  - ・関係機関(共同募金会等)からの補助金を受けられなかった。
  
- ③受援力(支援を受ける力)を高める必要性を感じた。
  - ・福祉バザーと時期が重なったため、社協職員全体での対応ができなかった。  
他市町村社協からの職員の応援の受入れ、調整などが不足していた。
  - ・平時より災害ボランティアの周知と啓発をより地域に広める必要がある。

⇒これら反省を踏まえ、平時から取り組みをすすめていく。

# 災害ボランティアの声

## 活動後のボランティア感想

自分の身の回りでも災害は起きている。それが近くでも遠くでも困っている人がいるならば、少しお役にたてることがあればお手伝いさせていただきます。ボランティア歴は短いですが、人のためになることがこんなに嬉しいことに気づかされました。



社協登録ボランティア 50代 男性



社協登録ボランティア 70代 男性

社協の災害ボランティアに事前登録していて、初めて本格的に災害ボランティアとして支援活動に入りました。活動を通して改めて災害の怖さと被災者の大変さを感じました。自身は高齢ですが今後も必要とあらば活動に協力したいと思います。

女性の私にどのようなお手伝いができるかと思いました。力仕事だけではなく、ボランティアを支えるボランティアも必要なんだと活動を通じて感じました。今後も被災された方に寄り添う活動ができればと思っています。



社協登録ボランティア 70代 女性



市外からのボランティア 50代 男性

社協職員がボランティアと一緒に、現場での被災者との調整や、活動の指揮をしていただいたので、他の被災地域で活動するよりも、活動しやすかったです。ボランティアだけで被災地域に支援に行くと不審がられることもあったので・・・。